

授業名： 学習スキル

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
佐藤 篤	一般	佐藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 1	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 「学ぶ」意味、どう学べば身に付くのかといった学習方法に関する疑問をグループワークなど経験をとおして習得できます。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①学習する意義を理解できる ②自分自身の得意・不得意分野を理解できる ③興味・関心をもつことの大切さを知る					考え抜く力 チームで働く力 前に踏み出す力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	学習スキルを学ぶ意義		専門学校と小・中学校及び高校の学習について			
2	自己紹介		自己紹介をします。 コミュニケーションやゲームをとおして自己を表現します。			
3	仲間づくりとリーダーシップ①		グループ活動をとおして、自己理解・他者理解について学びます。 グループ活動について、感想をお互いに発表します。			
4	仲間づくりとリーダーシップ②		グループ活動をとおして、自己理解・他者理解について学びます。 グループ活動について、レポートをまとめます。			
5	なぜ勉強しなければいけないのか		筆記試験を実施します。 試験結果から、学習課題を明確にします。			
6	ノートをとる技術		ノートやメモの重要性について学びます。			
7	文章を要約する技術		文章を読んで、感想を書きます。			
8	意見を述べる		自分の考えをまとめ、相手に伝えるために、ディベートをします。			
9	口頭発表のスキル(テーマをみつける)		発表の方法について練習します。			
10	発表		テーマについて発表します。			
11	原稿用紙の書き方と実践		レポートの構成と文献の引用の仕方について学びます。			
12	レポートの書き方		レポートの構成と文献の引用の仕方について説明及び実践できます。			
13	学習する生活を考える①		自主学習活動			
14	学習する生活を考える②		自主学習活動			
15	まとめ					
期末試験			評価方法	筆記試験	60%	
				受講態度	40%	
【教科書】資料等配布します。						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】反復学習をすることが望ましい						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 体育(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1	
薄 貴	一般	佐藤	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	火 3	【授業形態・単位】	演習 2	
【授業の概要】 <small>体育とは、健康の維持・増進と、運動機能の向上を図る実践の場である。ネットを境界線とする球技、対人を相手とする球技を通じて、個人的・集団的の技能を習得し、チームワークとしての自主性、積極性、協調性を育み、ルールの順守という社会的態度を育成する。更に個々の技能を習得、熟練を目指し、運動実践をすることにより、気分転換、ストレス解消といった心の健康を育むことを学習し、理解する。</small>					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①ウォーミングアップとしてのストレッチ運動を体験・学習し主運動が充分行えるようにする ②太極拳健康運動を習得することにより、それを演武することでコミュニケーションを図ることに役立たせる ③安心・安全での正しい運動実践に心がけ、器具の整備・点検に留意する					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 心身機能と構造の理解		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	運動活動におけるオリエンテーション		1. ストレッチ運動の方法： 2.太極拳運動の方法： 3.活動時における取り組み方 4.器具・機材の安全管理				
2	A・選択授業(卓球・バドミントン)		個人・ダブルスの簡易ゲーム(個々人の技能確認)				
3			個人技能の練習と習得				
4	B・バレーボール		簡易ゲームによる個々人の技能確認				
5			実践に近い様式でのゲーム感覚の練習				
6	B・フット・サル		個人技能の練習と習得(グループ)				
7			実践に近い様式での集団技能の練習と習得				
8	C・バスケットボール		個人技能の練習と習得(グループ)				
9			1.個人技能の練習と習得				
10			2.集団技能の練習と習得				
11	ゲーム展開		1.男女別チームによるゲーム				
12			2.男女混合によるゲーム				
13			3. 男女の基本的技能の差異を考えたゲームコントロール				
14	まとめ						
15	期末試験						
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%		
				実技試験	40%		
【教科書】なし							
【参考書】なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 普段から体力づくりを意識した生活をするのが望ましい							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 体育(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
薄 貴	一般	佐藤	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	火 3	【授業形態・単位】	演習 2
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
<p>体育とは、健康の維持・増進と、運動機能の向上を図る実践の場である。ネットを境界線とする球技、対人を相手とする球技を通じて、個人的・集団的の技能を習得し、チームワークとしての自主性、積極性、協調性を育み、ルールの順守という社会的態度を育成する。更に個々の技能を習得、熟練を目指し、運動実践をすることにより、気分転換、ストレス解消といった心の健康を育むことを学習し、理解する。</p>					<p>前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 心身機能と構造の理解</p>	
【学習目標(到達目標)】						
<p>①ウォーミングアップとしてのストレッチ運動を体験・学習し主運動が充分行えるようにする ②太極拳健康運動を習得することにより、それを演武することでコミュニケーションを図ることに役立たせる ③安心・安全での正しい運動実践に心がけ、器具の整備・点検に留意する</p>						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	B・フットサル		1. 個人技能の練習と習得(グループ学習で) パス～トラップ～リフティング～パス ドリブル(サークル)～リフティング～ドリブル			
2			2. 実戦に近い様式での集団的の練習と習得 3:3ハーフコートでのシュートへの連携プレイ			
3			男女別でのゲーム(5:5) 身体接触(脚) シュートボールのスピードに対する安全留意			
4			個人技能を十分に活用 壁を使ってのリバウンド活用			
5			男女混合チームでのゲーム 男女の基本的能力の差異を考えた上でのゲーム・コントロール			
6			G・Kの役割			
7	C・バスケットボール		1. 個人技能の練習と習得(グループ) パス…チェスス:バウンズ:オーバーヘッド:ショルダー			
8			ドリブル…チェンジ・オブ・ベース:チェンジ・オブ・ハンド:バックロール 2. 集団技能の練習と習得			
9			①3MENブレイク・アウト…ドリブル～パス～シュート ②3:3ハーフコートプレイ(実践に近い様式)			
10	ゲーム展開		1. 男女別によるゲーム ゲーム内容によるチーム変更			
11			いかにしてシュートに持ち込めるか			
12			2. 男女混合によるゲーム 経験者の活用…チームリーダー			
13			ディフェンスをどうするか…マンツーマンかゾーンか 楽しくゲームをするためには			
14	まとめ		(1:1で相手をおかわしてシュートする楽しみ) (ノーマークを作って得点する楽しみ)			
15	期末試験					
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%	
				実技試験	40%	
【教科書】なし						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 普段から体力づくりを意識した生活をするのが望ましい						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 介護福祉論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
知野 吉和	特別養護老人ホーム 8年勤務	佐藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 2	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について、現場経験から得た基礎をもとに介護場面における倫理的課題について対応できるための学習を行います。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 人間の理解と尊厳について学び、介護福祉士としての基礎となる教養・判断力を養い、豊かな人間性を涵養するよう、「自律」概念について学びます。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 人間と社会の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	はじめに	専門職としての介護福祉とは				
2	社会と生活	経済社会の変化と国民の生活及び意識の変化について学びます				
3	介護福祉と社会福祉	人間を福祉的視点から学びます				
4	人間の理解と尊厳について	生活支援の意義と目的について学びます				
5	介護福祉の理解①	介護福祉の基本的な考え方と社会的意義について学びます				
6	介護福祉の理解②	介護をとおして人間を理解することの意義を演習から学びます				
7	介護福祉の理解③	他者を認めることの重要性について学びます				
8	介護福祉の理解④	高齢者の生活から尊厳について考察します				
9	介護福祉の理解⑤	障害のある人の生活から自立・自律について考察します				
10	介護福祉の理解⑥	子どもの生活から人権(権利)について考察します				
11	人間の理解①	自己受容について学びます				
12	人間の理解②	自己表現について学びます				
13	人間の理解③	振り返りから自分自身を考察します				
14	人間の理解④	振り返りから自分自身を考察します				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解、介護福祉用語辞典 7訂						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 社会参加とボランティア

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
佐藤 篤	有料老人ホーム 3年	佐藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 2	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 ボランティア活動を通して、福祉を必要とする人に対してどのように介護福祉士がかかわるか。そして、社会人としてのあり方についても考える。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 「介護」について、そして「ボランティア活動」を通して福祉職のあり方について深く追求していく。また、活動を客観視できるようレポート等から、各自の今後の課題について明確化を図っていく。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 人間と社会の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション	授業の進め方, シラバスについて				
2	コミュニケーション①	第一印象の形成について考える				
3	コミュニケーション②	人間関係の形成(会話をすること, 挨拶について)				
4	コミュニケーション③	「ことば」で伝えることの難しさ				
5	コミュニケーション④	質問と促し, 繰り返しと言い換え, 説明, について理解する				
6	コミュニケーション⑤	3つの「きく」と傾聴方法の理解				
7	コミュニケーション⑥	共感技法について理解する				
8	社会福祉施設と関連法規	社会福祉施設を調べ, 関連法規についても理解する				
9	人間関係の形成の実践	ボランティアに行く施設への連絡調整をする				
10	心構えについて	課題と準備物についての確認ができる				
11	人間関係の振り返り①	個人又はグループでのディスカッション				
12	人間関係の振り返り②	尊厳の保持とは何か理解できる				
13	人間関係の振り返り③	自立支援にについて理解できる				
14	人間関係の振り返り④	ラポール(信頼関係)を形成することの重要性				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】資料等配布します。						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】積極的にボランティアに参加しましょう						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名： 生活と福祉 I

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1	
佐藤 篤	有料老人ホーム3年勤務	佐藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	水 1	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 社会福祉の基礎的理解を目的とし、社会福祉の法律、制度、行財政、関連法規等、生活と福祉との関係性について学びます。					【受講して得られる力】 生活支援技術 コミュニケーションスキル 論理的思考力 知識・理解 コミュニケーションスキル		
【学習目標(到達目標)】 ①自分自身、家族、社会について理解できる。 ②社会福祉の制度枠組みを理解できる。 ③現代社会における国民生活について理解できる。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	オリエンテーション	国民の生活と現代社会について考える 国民生活と福祉、法律の関係性について学ぶ					
2	生活とは	生活リズム、生活の要素と構造について学ぶ 個人と社会が織り成す生活環境について理解できる					
3	生活と福祉	家族の多様な機能について学ぶ 人の生活について考え、理解できる					
4	地域社会と個人	地域社会と個人について学ぶ 都市化と限界集落、地域社会と人間関係、地域ケアについて理解できる					
5	現代におけるライフサイクル	少子化と高齢化、その現状について学ぶ 育児と介護を支える仕組みについて理解できる					
6	社会福祉の法律	福祉六法と関連法規について学ぶ 福祉六法を中心に社会福祉法制について理解できる					
7	生活の支援と福祉の体系	社会福祉と社会保障の役割について学ぶ 社会福祉の実施体制や役割分担、制度の運用の基礎について理解できる					
8	社会保障の仕組み	社会保障の定義、目的や機能について学ぶ 社会保障制度について理解できる					
9	日本の社会保障制度の仕組み	社会保障制度を支える考え方、財源について学ぶ 現代社会と社会保障制度について理解できる					
10	介護保険制度(1)	介護保険制度の目的を理解できる 介護保険制度の仕組みについて理解できる					
11	介護保険制度(2)	介護保険制度の機関・組織や国・都道府県・市町村の役割について学ぶ 専門職の役割について理解できる					
12	介護保険制度(3)	介護保険制度改正の流れと地域包括ケアについて学ぶ 介護保険制度について理解できる					
13	障害者の支援の担う法制度(1)	障害者の自立と障害者自立支援制度の目的について学ぶ 障害者福祉施策について理解できる					
14	障害者の支援の担う法制度(1)	障害者自立支援制度の仕組みを学ぶ 障害者自立支援制度にかかわる組織とその役割について理解できる					
15	まとめ	生活と福祉 I のまとめ					
期末試験		評価方法	筆記試験	60%			
			受講態度	40%			
【教科書】新・介護福祉士養成講座2 社会と制度の理解							
【参考書】なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】ニュースや新聞等のトピックに一定の知識をもっていることが望ましい							
【本講義に関するの質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 生活と福祉Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1	
佐藤 篤	有料老人ホーム3年勤務	佐藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	火 1	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 社会福祉の基礎的理解を目的とし、社会福祉の法律、行財政、関連法規等、生活と福祉との関係性について講義形式を中心に展開します。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①自分自身、家族、社会について理解できる。 ②社会福祉の制度枠組みを理解できる。 ③現代社会における国民生活について理解できる。					前に踏み出す力 チームで働く力 論理的思考力 知識・理解 コミュニケーションスキル		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション		重層型社会について 今、生きている時代について考える				
2	多様化する家族のかたち		さまざまな家族の形を示しつつ、現代社会における家族の役割を確認し、家族に対する柔軟なアプローチの必要性について学習する				
3	ケアの社会化		主に高齢期のケアに関わる課題を提示し、親の扶養規範、老老介護ケアのジェンダー化などを踏まえて学習する				
4	自立を目指したケア①		QOL, ノーマライゼーション, 利用者主体の考え方を踏まえ、自立支援の考え方及び具体的な展開について学習する				
5	自立を目指したケア②		ICF(国際生活機能分類)の考え方を理解し、その視点に基づくアセスメントについて学習する				
6	地域福祉の展開①		基礎的な定義を学ぶとともに、日本社会における「関係性」の特質について理解する				
7	地域福祉の展開②		地域福祉計画の意義を学び、市町村の策定動向を紹介し、それに基づく地域福祉活動について理解する				
8	地域福祉の展開③		コミュニティソーシャルワークの考え方について学習し、コミュニティソーシャルワーカーの活動を理解する				
9	ボランティアとNPO活動の展開		これまでのボランティア・市民活動の変化や支援のあり方について学習する				
10	リゾーム的機能を持つ地域コミュニティ		リゾーム的機能を持つ地域コミュニティのあり方について理解し、その中で介護福祉士の果たす役割を考える				
11	福祉国家の諸類型		脱商品化と脱家族化という基準に基づいた福祉国家の4分類について学習する				
12	社会福祉の国際比較①		先進諸国の社会福祉の構造と特徴について学習する				
13	社会福祉の国際比較②		東アジア諸国の社会福祉について学習する				
14	グローバル化とローカル化		海外の事例と日本の事例を比較し、グローバル化とローカル化の二つの座標軸から社会を理解する				
15	まとめ						
期末試験			評価方法	筆記試験	60%		
				受講態度	40%		
【教科書】新・介護福祉士養成講座2 社会と制度の理解							
【参考書】なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】ニュースや新聞等のトピックに一定の知識をもっていることが望ましい							
【本講義に関するの質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 英会話

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1	
ロバート・ホルト		英会話講師 14年勤務	佐藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
				【曜日・コマ】	水 1	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 The purpose of this course is to teach students "Beginner" level English and to give them the confidence to use this English in real situations. The course will focus on developing core skills for communication.					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 Students will be expected to use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students). Over the course students will experience English in a number of formats (reading, listening, music etc) and will be expected to communicate in English and sing songs.					知識・理解 コミュニケーションスキル 態度・志向性 統合的学習体験		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	1A - Hello		Verb be (singular): I and you. Numbers 0-10; days of the week.				
2	1B - Where are you from?		Verb be (singular): He, she and it. Countries.				
3	Practical English: How do you spell it?		The alphabet and spelling. Spelling practice.				
4	2A - We aren't English. We're American.		Verb be (plural): We, you, they. Nationalities.				
5	2B - What's your phone number?		Wh- and How questions with be. Phone numbers; numbers 11-100.				
6	3A - What's in your bag?		Singular and plural nouns; a / an. Vocabulary - small things.				
7	3B - Is that a hat?		This / That / These / Those. Vocabulary - Souvenirs.				
8	Practical English: Can I have an orange juice, please?		Saying and understanding prices. The use of money and numbers.				
9	4A - Family and friends.		Possessive adjectives; possessive 's. Vocabulary - people and family.				
10	4B - Big cars or small cars?		Adjectives. Colours and common adjectives.				
11	5A - Breakfast around the world.		Present simple (+ / -): I, you, we and they. Food and drink vocabulary.				
12	5B - A very long flight.		Present simple (?): I, you, we and they. Common verb phrases 1.				
13	Practical English: What time is it?		Telling the time.				
14	6A - She works for Armani.		Present simple: He, she and it. Jobs and places of work.				
15	6B - A day in my life.		Adverbs of Frequency. A typical day.				
期末試験	Examination		評価方法	筆記試験	100%		
【教科書】English File Beginner Student's Book & iTutor third edition							
【参考書】なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名： 安全管理と感染防止

※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
富田 きよ子	病院 43年勤務	富田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火 3	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 看護の臨床経験を生かして、介護を必要とする方の安全を何より優先すべきことを認識し、介護福祉に従事するすべての職員が安全を最優先に考えてその実践を目指す態度や考え方を学習する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 安全な介護を提供することができる介護福祉士を目標に、事例学習をととして安全管理およびリスクマネジメントの考え方を習得する。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】 主体的に授業に参加しよう						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	安全管理を学ぶ意義		介護における事故をととして安全を考える			
2	介護の質(1)		介護の質とは、介護の質の評価、国際標準化機構(ISO)について理解できる			
3	介護の質(2)		個人情報保護法と介護における個人情報の取り扱いについて理解できる			
4	介護の質(3)		インフォームドコンセントと自己決定、高齢者虐待と身体拘束ゼロについて理解できる			
5	リスクマネジメント(1)		リスクマネジメントとは、リスクマネジメントのプロセスを学ぶ			
6	リスクマネジメント(2)		インシデントレポートの目的と意義、分析、活用について理解できる			
7	リスクマネジメント(3)		介護福祉士の法的責任について(行政処分、民事責任、刑事責任)を学ぶ			
8	介護の環境と感染症		介護を必要とする人と感染症について学ぶ			
9	施設内感染対策		施設内感染とは、施設内感染予防対策、スタンダード・プリコーションについて理解できる			
10	施設内感染対策		インフルエンザ、MRSA、肺炎等について理解できる			
11	施設内感染対策		食中毒とは、食中毒の原因、ノロウイルス食中毒について感染拡大しないさせない対処方法について理解できる			
12	施設内感染対策		ウェルシュ菌、黄色ブドウ球菌、病原性大腸菌等について理解できる			
13	居宅介護における感染対策		家族間感染の予防、家庭における衛生管理について考える			
14	抵抗力を高める感染対策		病原体から身体を守る対策が理解できる			
15	まとめ					
期末試験			評価方法	受講態度	60%	
				筆記試験	40%	
【教科書】担当教員が指示します						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 介護論 I

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
進藤 智佳子	有料老人ホーム 7年	進藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 高齢者施設で介護福祉の専門職としての能力と態度、生活支援の観点から考えることができる知識・技術の実務経験を積みました。その経験を授業で活用し、介護福祉士の役割や理念及び倫理、専門性について学んでいきます。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①介護の理念・倫理を説明できる。 ②介護福祉士の役割を説明できる。 ③多職種と連携を図る必要性を説明できる。					生活支援技術 コミュニケーションスキル 論理的思考力 知識・理解 コミュニケーションスキル	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション	介護論を学ぶ意義、目的を理解できる				
2	介護の概念	介護の歴史から専門職としての介護福祉士の成り立ちを理解できる 求められる介護福祉士像、介護人材の確保対策・役割について学ぶ				
3	介護の概念	介護福祉士の理念と定義について学ぶ 社会福祉士法及び介護福祉士法、介護福祉士の役割と機能を理解する				
4	介護の概念	介護福祉士の理念を理解できる 日本介護福祉士倫理綱領について学ぶ				
5	介護の概念	暮らしを支援する介護について理解する 他者の尊厳を護り支援できる介護福祉士について学ぶ				
6	介護を必要とする人との援助関係	自立と自律について学ぶ				
7	介護を必要とする人との援助関係	援助関係を築く基本技術を理解する 傾聴能力・共感的態度について学ぶ				
8	介護を必要とする人との援助関係	相互関係における介護の役割を学び、理解できる				
9	介護援助の方法	バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解できる 居住環境の整備について学ぶ				
10	介護にかかわる連携	多職種連携の意義と目的を理解する 事例を例にして考察をする				
11	介護にかかわる連携	多職種連携の意義と目的を理解する 事例を例にして考察をする				
12	介護にかかわる連携	介護を必要とする人と家族及び多職種との連携と協働 事例を例にして考察をする				
13	介護にかかわる連携	記録と情報の共有化について学び、理解できる				
14	介護福祉士の健康と安全	健康管理の意義と方法について理解する 介護従事者の健康問題と労働環境について学ぶ				
15	まとめ	介護論 I のまとめ				
期末試験		評価方法	筆記試験	60%		
			レポート	40%		
【教科書】新・介護福祉士養成講座3 介護の基本 I 新・介護福祉士養成講座4 介護の基本 II						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関するの質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 介護論Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
進藤 智佳子	有料老人ホーム 7年	進藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 高齢者施設で介護福祉の専門職としての能力と態度、生活支援の観点から考えることができる知識・技術の実務経験を積みました。その経験を状業で活用し、介護福祉士の役割や理念及び倫理、専門性について学んでいきます。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①介護福祉の意義について理解できる。 ②介護福祉のサービスについて理解できる。 ③福祉分野の概要(歴史・理念・目的・法制度・資格等)について理解できる。					生活支援技術 コミュニケーションスキル 論理的思考力 知識・理解 コミュニケーションスキル	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション	介護論Ⅱを学ぶ意義、目的を理解できる				
2	福祉の理念	社会福祉・介護福祉の思想・考え方について理解できる 人権・差別・生きるについて考える				
3	社会福祉・介護福祉の歴史	戦前の社会の様子を知る 人の生活について考え、理解できる				
4	社会福祉・介護福祉の歴史	戦後の社会の様子を知る 地域特性、人の生活について考え、理解できる				
5	社会福祉・介護福祉の歴史	諸外国の社会福祉・介護福祉について 諸外国の社会福祉・介護福祉の歴史について理解できる				
6	介護福祉の仕組み(サービス)	介護福祉士の資格と専門性について学ぶ 福祉サービスと介護サービスについて理解できる				
7	介護福祉の仕組み(連携)	介護・福祉サービスの提供と組織運営について学ぶ 介護・福祉サービスの提供と介護実践における連携について理解できる				
8	介護福祉の仕組み(自立支援)	介護を必要とする方への相談援助について学ぶ 支援方法・内容・技術について理解できる				
9	介護サービスの提供の場の適正 (高齢者)	高齢者に対するサービスの種類について学ぶ 高齢者に対するサービスの意義や目的を理解する				
10	介護サービスの提供の場の適正 (高齢者)	サービスを利用しながら暮らしている利用者の生活、介護のあり方を理解する 各サービスの内容や特徴を知り、介護福祉士の役割を理解する				
11	介護サービスの提供の場の適正 (障害者)	障害者に対するサービスの種類について学ぶ 障害者に対するサービスの意義や目的を理解する				
12	介護サービスの提供の場の適正 (障害者)	サービスを利用しながら暮らしている利用者の生活、介護のあり方を理解する 各サービスの内容や特徴を知り、介護福祉士の役割を理解する				
13	高齢者の尊厳の保持と自立支援	高齢者の尊厳の保持について考える 高齢者の自立支援について考える				
14	福祉とは	人権保障と福祉・介護について学ぶ 権利擁護についてレポートをまとめる				
15	まとめ	介護論Ⅱのまとめ				
期末試験		評価方法	筆記試験	60%		
			レポート	40%		
【教科書】新・介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ 新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名： 対象理解

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
窪木 守	特別養護老人ホーム 14年勤務	窪木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 介護保険制度の改革・医療保険制度の改革にともない介護の対象は、高齢者から身体障害者・精神障害者・知的障害者・認知症の方・終末期にある方など多様になっている。介護を必要とする方に適切なサービスを提供できる基本は対象を適切に理解することにある。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ・介護を個人・家族・地域の視点から介護の役割を説明できる。 ・高齢者や障害を持って生活する対象を理解する。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	対象理解を学ぶ意義	介護を必要とする人を理解し、援助関係を築くために				
2	介護の対象	介護の対象に係る規定				
3	介護の対象	ICFの考え方				
4	日常生活から見た対象理解	日常生活の理解、介護を必要とする人の生活				
5	日常生活から見た対象理解	介護を必要とする人の生活と介護支援レベル				
6	日常生活から見た対象理解	文化・個別性・多様性への理解				
7	日常生活から見た対象理解	高齢者・障害者と生活障害				
8	健康を維持する側面から	健康の意義・加齢の理解				
9	健康を維持する側面から	高齢者の身体的・心理的・社会的特性				
10	健康を維持する側面から 介護を必要とする人の理解	高齢者の主な疾患と生活障害				
11	健康を維持する側面から 介護を必要とする人の理解	障害者の身体的・心理的・社会的特性				
12	介護を必要とする人を理解する	観察とは何か・何をどのように観察するか・観察の実際				
13	介護を必要とする人を理解する	介護場面のプロセスレコード				
14	介護を必要とする人が生活する場	施設に生活する介護を必要とする人・地域で生活する介護を必要とする人				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】随時提示する						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習必須						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1	
窪木 守	特別養護老人ホーム 14年勤務	窪木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	火 1	【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】 介護の基本となる、「介護を必要とする方の自立を促すことができる介護」を提供するための基礎を学ぶ。「介護従事者の安全」を護り、「安全な介護」を提供できるからだの使い方を身につける。また、日常生活における人間の自然な動きを理解し、姿勢・安全な動作を身につけ、臨床経験をもとにした自立に向けて安全な介護を実践するための基礎を習得する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 心身機能と構造の理解		
【学習目標(到達目標)】 ①「自立に向けた介護」を提供できるため、「寝返る・起きる・座る・立つ・歩く」などの人間の自然な動作を説明できる。 ②介護従事者が安全な介護を提供するために必要なボディーメカニクスを活用できる。 ③安全に生活できるために、介護を必要とする方の「よい姿勢と動作の関係」を説明できる。							
【履修上の注意】 実習室での授業は身だしなみを整える							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	イントロダクション		ボディーメカニクスを学ぶ意義、目的を理解できる 学習する上でのルール、注意事項を理解できる				
2	ボディーメカニクス8原則		介護従事者と介護を必要とする方、相互におけるボディーメカニクスの重要性を理解できる 介護従事者が安全に介護を提供するための、ボディーメカニクスの8原則を学ぶ				
3	介護従事者のボディーメカニクス		介護従事者が安全に介護を提供するための、ボディーメカニクスの8原則を理解できる ベッドメイキングの技法を通して、介護従事者が安全に介護ができるからだの使い方を学ぶ				
4	介護従事者のボディーメカニクス		介護従事者が安全に介護を提供するための、ボディーメカニクスの8原則を理解できる ベッドメイキングの技法を通して、介護従事者が安全に介護ができるからだの使い方を学ぶ				
5	自立支援とボディーメカニクス		介護従事者と介護を必要とする方、相互におけるボディーメカニクスの重要性を理解できる 介護を提供する際の安全とは、自立支援とは、を学び、ボディーメカニクスの重要性を学ぶ				
6	安全な姿勢とは		介護を必要とする方の「臥位・座位・立位」における安全な姿勢(支持基底面と重心の関係)を理解できる 「臥位・座位・立位」における、安全と支持基底面と重心の関係について学ぶ				
7	自立に向けた介護の技法「寝返る」		自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「寝返る」を理解できる 「寝返り」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な寝返りの動きを学ぶ				
8	自立に向けた介護の技法「寝返る」		自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「寝返る」を理解できる 「寝返り」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な寝返りの動きを学ぶ				
9	自立に向けた介護の技法「起きる」		自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「起きる」を理解できる 「起き上がり」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な起き上がりの動作を学ぶ				
10	自立に向けた介護の技法「起きる」		自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「起きる」を理解できる 「起き上がり」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な起き上がりの動作を学ぶ				
11	自立に向けた介護の技法「立つ・座る」 (介護ロボットの体験)		自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「立つ・座る」を理解できる 「立つ・座る」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な立つ動作・座る動作を学ぶ				
12	自立に向けた介護の技法「立つ・座る」 (介護ロボットの体験)		自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「立つ・座る」を理解できる 「立つ・座る」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な立つ動作・座る動作を学ぶ				
13	自立に向けた介護の技法「歩く」		自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「歩く」を理解できる 「歩く」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な歩行を学ぶ				
14	自立に向けた介護の技法「歩く」		自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「歩く」を理解できる 「歩く」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な歩行を学ぶ				
15	まとめ						
期末試験			評価方法	受講態度	20%		
				筆記試験	80%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I、7 生活支援技術 II							
【参考書】なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】授業前に予習、授業後の復習(実技練習)							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
知野 吉和	特別養護老人ホーム 8年勤務	知野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 介護を必要とする方へのアプローチの方法や技術を理解し実践できるようにする。対人援助職として必要不可欠な技術を身につける。交流分析の研究を用いたグループワーク等を展開する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術	
【学習目標(到達目標)】 ・関係づくりについて理解する。 ・介護におけるコミュニケーションの基本を習得する。 ・社会とコミュニケーションの意味について考察できる。						
【履修上の注意】 主体的に授業に参加しましょう						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	コミュニケーションとは		コミュニケーションの定義と働きについて理解する			
2	コミュニケーション技術①		価値観の比較と受容の意味について			
3	コミュニケーション技術②		事例検討から受容の実践について			
4	コミュニケーション技術③		事例検討から受容の実践について			
5	コミュニケーション技術④		事例検討から共感の実践について			
6	コミュニケーション技術⑤		事例検討から共感の実践について			
7	コミュニケーション技術⑥		客観的な自分について考察する			
8	コミュニケーション技術⑦		客観的な自分について考察する			
9	コミュニケーション技術の実践①		ディベート			
10	コミュニケーション技術の実践②		ビブリオバトル			
11	コミュニケーション技術の実践③		質問力を磨く ロールプレイ			
12	コミュニケーション技術の実践④		他職種との連携・協働・統合			
13	コミュニケーション技術の実践⑤		書く技術, 話す技術のまとめ 記録と報告			
14	コミュニケーション技術の実践⑥		書く技術, 話す技術のまとめ 記録と報告			
15	まとめ					
期末試験			評価方法	受講態度	60%	
				筆記試験	40%	
【教科書】最新 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 対人援助技術

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
知野 吉和	特別養護老人ホーム 8年勤務	知野	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 1	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 介護支援専門員の経験から、介護を必要とする方に応じた、またその家族とのコミュニケーションの方法論を展開する。チームコミュニケーションについて理解する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①障害に応じたコミュニケーションの方法を学ぶ。 ②多職種協働におけるコミュニケーションのあり方について学ぶ。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション	対人援助技術を学ぶ意義・目的について理解する				
2	失語症の方とのコミュニケーション	失語症の方とのコミュニケーションについて理解する				
3	構音障害の方とのコミュニケーション	構音障害の方とのコミュニケーションについて理解する				
4	視覚障害の方とのコミュニケーション①	視覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する 点字を通してのコミュニケーション				
5	視覚障害の方とのコミュニケーション②	視覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する 点字を通してのコミュニケーション				
6	視覚障害の方とのコミュニケーション③	視覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する 点字を通してのコミュニケーション				
7	聴覚障害の方とのコミュニケーション	聴覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する 手話を通してのコミュニケーション				
8	聴覚障害の方とのコミュニケーション	聴覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する 手話を通してのコミュニケーション				
9	聴覚障害の方とのコミュニケーション	聴覚障害の方とのコミュニケーションについて理解する 手話を通してのコミュニケーション				
10	知的障害の方とのコミュニケーション	知的障害の方とのコミュニケーションについて理解する				
11	精神障害の方とのコミュニケーション	精神障害の方とのコミュニケーションについて理解する				
12	チームでのコミュニケーション①	チームでのコミュニケーションの意義と目的について理解する				
13	チームでのコミュニケーション②	チームでのコミュニケーションに必要な方法について理解する				
14	チームでのコミュニケーション③	チームでのコミュニケーションに必要な方法について理解する				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 介護基礎技術 I (1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
窪木 守	特別養護老人ホーム 14年勤務	窪木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	木 1・2	【授業形態・単位】	演習 2
【授業の概要】 介護を必要とする方に安全に、安心した介護を受けていただけるために、基本的な介護技術を習得します。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①介護技術の基本となるボディメカニクスを活用した技術を習得することができる ②モデル体験から介護を必要とする方を理解し、そこから介護を必要とする方の自立、自律を尊重を考えることができる ③人間の自然な動きを理解し、寝る、座る、起きる、立つ動作の基本的な介護技術を理解することができる					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション①	介護基礎技術を学ぶ意義、目的を理解できる 介護技術の意義、目的を知り、学ぶ上でのルール、注意事項を理解できる				
2	観察・アセスメント	介護における観察とアセスメントの視点について理解する 健康状態の観察、知的、心理的状態の観察とアセスメントについて学ぶ				
3	観察・アセスメント	介護における観察とアセスメントの視点について理解する 健康状態の観察、社会的側面の観察とアセスメントについて学ぶ				
4	居住環境整備	自立に向けた環境の整備について理解できる 居住環境整備の意義と目的について学ぶ				
5	オリエンテーション②	実習室使用にあたっての注意事項について理解する 心構え、身だしなみの重要性について学ぶ				
6	ベッドメイキングの技法	ベッドメイキングの技法について理解できる ボディメカニクスを活用したベッドメイキングの介護技術を学ぶ				
7	ベッドメイキングの技法	ベッドメイキングの技法について理解できる ボディメカニクスを活用したベッドメイキングの介護技術を学ぶ				
8	ベッドメイキングの技法	ベッドメイキングの技法について理解できる ボディメカニクスを活用したベッドメイキングの介護技術を学ぶ				
9	身じたくの介護	自立支援を支える身じたくの介護を理解できる 身だしなみ、着替えの意義、衣類・寝具の清潔管理、プライバシー空間について学ぶ				
10	身じたくの介護	自立支援を支える身じたくの介護を理解できる ボディメカニクスを活用した椅座位姿勢での着替えの介護技術を学ぶ				
11	身じたくの介護	自立支援を支える身じたくの介護を理解できる ボディメカニクスを活用した臥位姿勢での着替えの介護技術を学ぶ				
12	身じたくの介護	自立支援を支える身じたくの介護を理解できる ボディメカニクスを活用した臥位姿勢での着替えの介護技術を学ぶ				
13	食事の介護	自立に向けた食事と環境、手洗いの意義、目的を理解できる 食事を楽しむための工夫について学ぶ。				
14	食事の介護	自立に向けた食事の介護技術を理解できる 手洗いの意義・目的及び介護技術を学ぶ				
15	食事の介護	自立に向けた食事の介護技術を理解できる 座位姿勢での安全、安楽な食事介護技術を学ぶ				
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			実技試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座9 介護過程、10 介護総合演習・介護実習						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】実技練習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 介護基礎技術 I (2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
窪木 守	特別養護老人ホーム 14年勤務	窪木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	木 1・2	【授業形態・単位】	演習 2
【授業の概要】 介護の基本となる、「介護を必要とする方の自立を促すことができる介護」を提供するための基礎を学びます。ボディメカニクスでは「介護従事者の安全」を護り、「安全な介護」を提供できるからだの使い方を身につけます。また、日常生活における人間の自然な動きを理解し、姿勢・安全な動作を身につけ、自立に向けて安全な介護を実践するための基礎を習得します。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①「自立に向けた介護」を提供できるため、「寝返る・起きる・座る・立つ・歩く」などの人間の自然な動作を説明できる。 ②介護従事者が安全な介護を提供するために必要なボディメカニクスを活用できる。 ③安全に生活できるために、介護を必要とする方の「よい姿勢と動作の関係」を説明できる。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	食事の介護	自立に向けた食事の介護技術を理解できる 臥位姿勢での安全、安楽な食事介護技術を学ぶ				
2	食事の介護	自立に向けた食事の介護技術を理解できる 口腔ケアの意義目的及び介護技術を学ぶ				
3	車椅子への移乗介助の技法	移動の技法について理解する ボディメカニクス、人間の自然な動きを活用した移乗の介護技術を学ぶ				
4	車椅子への移乗介助の技法	移動の技法について理解する ボディメカニクス、人間の自然な動きを活用した移乗の介護技術を学ぶ				
5	車椅子の操作	移動の技法、車椅子を押す際の介護について理解する ボディメカニクスを活用した車椅子を押す際の介護技術を学ぶ(平地、段差、坂道)				
6	車椅子の操作	移動の技法、車椅子を押す際の介護について理解する ボディメカニクスを活用した車椅子を押す際の介護技術を学ぶ(平地、段差、坂道)				
7	車椅子の操作	移動の技法、車椅子を押す際の介護について理解する ボディメカニクスを活用した車椅子を押す際の介護技術を学ぶ(平地、段差、坂道)				
8	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する 排泄とは、排泄の意義、排泄のアセスメント、観察方法、排泄の手段について学ぶ				
9	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクスを活用したポータブルトイレを使用した排泄の介護技術を学ぶ				
10	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクスを活用したポータブルトイレを使用した排泄の介護技術を学ぶ				
11	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクスを活用したポータブルトイレを使用した排泄の介護技術を学ぶ				
12	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクス「てこの原理」を活用した尿器、便器での排泄の介護技術を学ぶ				
13	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクス「てこの原理」を活用した尿器、便器での排泄の介護技術を学ぶ				
14	排泄の介助	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクス「てこの原理」を活用した尿器、便器での排泄の介護技術を学ぶ				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			実技試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座9 介護過程、10 介護総合演習・介護実習						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】実技練習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 介護基礎技術Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
窪木 守	特別養護老人ホーム 14年勤務	窪木	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 3	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 介護を必要とする方に安全に、安心した介護を受けていただけるために、基本的な介護技術を習得します。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①介護技術の基本となるボディメカニクスを活用した技術を習得することができる ②モデル体験から介護を必要とする方を理解しそこから介護を必要とする方の自立、自律を尊重を考慮することができる					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	排泄の介助(講義・演習)	ボディメカニクスを活用したおむつ交換の介護技術を学ぶ				
2	排泄の介助(演習)	自立に向けた排泄介護の技法について理解する ボディメカニクスを活用したおむつ交換の介護技術を学ぶ				
3	入浴介護(講義)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 入浴・清潔保持の意義、アセスメントの項目について学ぶ				
4	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 全身清拭、ベット上での洗髪、特殊浴槽、家庭浴槽の入浴の介護技術を学ぶ				
5	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 全身清拭、ベット上での洗髪、特殊浴槽、家庭浴槽の入浴の介護技術を学ぶ				
6	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 入浴・清潔保持の意義、アセスメントの項目について学ぶ				
7	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 全身清拭、ベット上での洗髪、特殊浴槽、家庭浴槽の入浴の介護技術を学ぶ				
8	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 入浴・清潔保持の意義、アセスメントの項目について学ぶ				
9	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 全身清拭、ベット上での洗髪、特殊浴槽、家庭浴槽の入浴の介護技術を学ぶ				
10	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 入浴・清潔保持の意義、アセスメントの項目について学ぶ				
11	入浴・清潔の保持の介護(演習)	自立に向けた入浴介護の技法について理解する 入浴・清潔保持の意義、アセスメントの項目について学ぶ				
12	睡眠の介護(講義)	自立に向けた睡眠の意義・目的を理解する 睡眠に関するアセスメントを学ぶ				
13	睡眠の介護(講義・演習)	自立に向けた睡眠の意義・目的を理解する 安眠を促す介護技術を学ぶ				
14	総括	介護基礎技術の振り返り				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			実技試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ、8 生活支援技術Ⅲ						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】実技練習をしましょう						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名： 家政学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
辻 匡子	一般	窪木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 1	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 日本人の健康と栄養状況は生活水準と医療の向上により、年々高くなっている。一方では、日常生活の不摂生、不規則な食生活及び運動不足などによって生活習慣病が増えている。よって、栄養素が体内で利用される過程を理解し、栄養と健康の知識を深める。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 健康と栄養について、講義に渡って理解し、説明できること。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	生活と食事		家庭生活と食事 社会の変動と食生活			
2	身体の機能と栄養		三大栄養素の働き			
3	身体の機能と栄養		微量栄養の働き			
4	身体の機能と栄養		日本人の食事摂取基準について			
5	身体の機能と栄養		日本人の食事摂取基準について			
6	身体の機能と栄養		消化吸収について			
7	食生活と健康		健康の概念と健康づくり			
8	食生活と健康		日本人の食生活の変化と疾病			
9	食生活と健康		日本人の食生活の変化と疾病			
10	食生活と健康		日本人の健康状態			
11	食生活と健康		ストレスと栄養			
12	高齢者の食生活		高齢者の食事と栄養			
13	障害者の食生活		障害者の食事と栄養			
14	まとめ		主な復習と資格試験に向けての対策			
15	まとめ					
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%	
				筆記試験	40%	
【教科書】新ビジュアル食品成分表 新版福祉のための家政学 自立した生活者を目指して						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関するの質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 家政学演習

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1	
辻 匡子	一般	窪木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	金 2	【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】 食生活の基本となる栄養・食材・調理について、正しい知識をもって、高齢者・障がい者それぞれに見合った適正な食事介護ができる介護福祉士としての能力を養う。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 食に関する様々な技能を修得し、高齢者や障がい者の食生活支援能力を養う。さらに基本的な調理技術を身につけ材料の扱い方、盛り付け、味加減などの工夫で食が豊かになることを学ぶ。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	食事に配慮		食材・調理法の配慮				
2	主菜に煮物		煮物を主菜に献立を立てる 献立に基づいて調理をし、試食・感想を述べる				
3	主菜に蒸し物		蒸し物を主菜に献立を立てる				
4	主菜に蒸し物		調理をし、試食・感想を述べる				
5	全粥食①		全粥に適した食材・調理法を選び献立を立てる				
6	全粥食①		献立に基づいて調理をし、試食・感想を述べる				
7	全粥食②		全粥に適した食材・調理法を選び献立を立てる				
8	全粥食②		献立に基づいて調理をし、試食・感想を述べる				
9	刻み食①		食材に合った切り方を工夫する				
10	刻み食①		献立に基づいて調理をし、試食・感想を述べる				
11	刻み食②		食材に合った切り方を工夫する				
12	刻み食②		献立に基づいて調理をし、試食・感想を述べる				
13	ミキサー食①		ミキサー食に適した献立を立てる				
14	ミキサー食①		献立に基づいて調理をし、試食・感想を述べる				
15	まとめ		実技のまとめ				
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%		
				筆記試験	40%		
【教科書】新ビジュアル食品成分表 新版福祉のための家政学 自立した生活者を目指して							
【参考書】なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】普段からすすんで家事をやりましょう							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： レクリエーション支援技術 I

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
七海 多美子		一般	佐藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】 15(30)
				【曜日・コマ】	水 2	【授業形態・単位】 演習 1
【授業の概要】 レクリエーションの基礎理論から援助の実際を学ぶ。講義・実技の形式で行う。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 レクリエーションの意義を理解し、社会福祉の中でのレクリエーションと生活の関係を理解する。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	レクリエーションの概念	レクリエーションの意義を理解する 語源やルーツからの理解				
2		レクリエーション支援の目的とは 心を元気にするとは何かを理解する				
3		支援者の原則				
4	楽しさと心の元気づくりの理論	レクリエーション活動からもたらされる楽しさを感じさせる心の仕組み フロー理論の理解				
5		マズローの欲求段階説を通じた良いコミュニケーションとは				
6		レクリエーション活動を心の元気づくりに活かす2つの視点 対象者の心の元気づくりの課題について理解する				
7		ライフステージごとの心の元気づくり				
8		高齢社会の課題とレクリエーション 介護予防とレクリエーションの重要性を理解する				
9		信頼関係づくりの方法 ホスピタリティとは レクリエーションにおけるホスピタリティを理解する				
10		対象者と良好なコミュニケーションをとるための 技法を理解する				
11		対象者と良好なコミュニケーションをとるための 技法を理解する				
12		良好な集団づくりの方法 アイスブレイキングの意義 アイスブレイキングの基本技術				
13		アイスブレイキングモデル 段階をおってコミュニケーションを促進するための活動の進め方				
14		アイスブレイキングのプログラムを立案する				
15		アイスブレイキングの効果を高める支援技術を習得する				
期末 試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： レクリエーション支援技術Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1	
七海 多美子		一般	佐藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
				【曜日・コマ】	水 2	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 良好な関係を築くための方法や対象者にあわせたレクリエーション支援方法を理解する。講義・実技の形式で行う。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 レクリエーションの目的(心を元気にする)達成のためのレクリエーション支援の方法、展開方法を理解する。対象者に合わせたアレンジ技術を習得する					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	レクリエーション支援の理論		信頼関係づくりの理論 レクリエーション支援におけるコミュニケーション				
2			良好な集団づくりの理論 集団内のコミュニケーションの促進法を理解				
3			自主的、主体的に楽しむ力を育む理論 2つの要素からやる気を引き出す技術を習得				
4	レクリエーション支援の方法		自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション 活動の展開方法を理解する				
5			アレンジの展開方法を理解する 活動分析とは				
6			アレンジの展開方法を理解する 活動分析				
7			段階的アレンジの応用 上付け方式				
8			段階的アレンジの応用 分割方式				
9			段階的アレンジの応用 実践				
10			モデル・プログラムの習得 A-PIEプロセス				
11			モデル・プログラムの習得 A-PIEプロセス				
12	レクリエーション支援の演習		プログラム立案 立案方法を理解する				
13			プログラム支援の実施 プログラムを用いたレクリエーション支援を試行する				
14			歌のリードの基本技術を理解 基本技術を習得する				
15			歌のリードの基本技術を理解 基本技術を習得する				
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%		
				筆記試験	40%		
【教科書】楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～							
【参考書】なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名： 介護過程理論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
窪木 守	特別養護老人ホーム 14年勤務	窪木	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 2	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 介護過程理論をなぜ学ぶのか、学ぶ必要性とその意義について介護福祉士の観点から考えていきます。介護を必要としているその人を理解するために必要とする情報とは何か。介護実践者として人間理解につながるよう具体的な事例を通して学びを深めます。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 1. 介護過程とはなにか、介護過程の展開方法を理解できる。 2. 介護過程におけるアセスメントを理解し、情報の収集、分析の方法が理解できる。 3. 「ニーズ」とは何かを理解でき、全体的な目標、各課題ごとの達成目標を立てることができる。 4. 介護計画の立案の方法が理					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	介護過程を学ぶ意義と目的①	介護実践における介護過程とは何か 日常生活に活かせる介護過程 ①				
2	介護過程を学ぶ意義と目的②	介護実践における介護過程とは何か 日常生活の中の介護過程 ②				
3	情報収集	日常生活と介護過程 情報を集めるために 個人ワーク グループワーク				
4	情報収集	介護福祉士の情報収集とは 人間理解の視点にたつて 発表(意見を出し合う)				
5	事例から考える(1)	課題の抽出 問題解決思考 グループワーク				
6	事例から考える(2)	課題の抽出 問題解決思考 事例発表				
7	情報の解釈・関連付け・統合化(1)	情報収集から何をどうしていくか。介護過程の基礎的理解 解釈とは 関連付けとは 統合化するとは				
8	情報の解釈・関連付け・統合化(2)	事例から 生活理解 人間理解の視点に立って 個人ワーク グループワーク				
9	課題を導き出す(1)	ニーズとは何か ニーズを導き出す根拠とは				
10	課題を導き出す(2)	介護計画の立案(作成) 同一事例に取り組む。導き出した根拠や考え方を発表しあう。				
11	ICFと介護過程(1)	ICFとは何か グループワーク				
12	ICFと介護過程(2)	ICFと全体性について 情報の関連付けを理解する。				
13	事例から考える(3)	確認試験 事例を考える				
14	事例から考える(4)	確認試験 事例を考える 事例発表				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】最新介護福祉士養成講座9 介護過程						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】実習に臨む準備をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 運動機能障害者の介護過程

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
富田 きよ子	病院 43年勤務	富田	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火 3	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 看護の臨床経験を生かし、運動機能障害の原因・症状・生活上の諸問題、原因となる疾患を理解すると共に、運動機能障害をもった方に対する介護過程の展開方法を学習します。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 1. 運動機能障害を起こす原因となる疾患を理解できる 2. 運動機能障害が、どのような身体的・精神的影響を与えるかを理解し、障害を負った方へ個々に合わせた介護技術を学ぶことができる 3. 運動機能障害をもった方の生活を理解し、介護福祉士の視点をもって介護過程を展開できる					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	肢体不自由のある人の介護	肢体不自由とは、肢体不自由による心理的影響				
2	脊椎損傷による障害	脊椎障害者の介護を理解できる				
3	パーキンソン病による障害	パーキンソン病者の介護を理解できる				
4	脳性麻痺による障害	脳性麻痺者の介護を理解できる				
5	筋ジストロフィーによる障害	筋ジストロフィーの介護を理解できる				
6	骨格系、関節リュウマチによる障害	骨折、変形性関節症、関節リュウマチの介護を理解できる				
7	脳血管障害による障害	脳血管障害者の介護を理解できる				
8	高次脳機能障害者の介護	高次脳機能障害者の介護を理解できる				
9	知的障害者の介護	知的障害者の定義、障害の特性に応じた支援が理解できる。				
10	精神障害者の介護	精神障害のある人の介護を理解できる				
11	〃	精神障害のある人の生活の障害の特徴				
12	発達障害者の介護	発達障害のある人の介護を理解できる				
13	重症心身障害者の介護	重症心身障害のある人の介護を理解できる				
14	運動機能障害者の介護過程	肢体不自由(運動機能障害)者の介護過程が展開できる				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】担当教員が指示します						
【参考書】壊れかけた記憶・持続する自我(医学書院) 点滴ポール 生き抜くという旗印(ナナクロ社出版)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関するの質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 総合演習 I

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
窪木 守	特別養護老人ホーム 14年勤務	窪木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 2	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 介護実習への導入が円滑に行え、実習で効果的な学びができるために必要な知識、技術、態度について学ぶ。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 1、利用者の生活・介護職員の役割・職員間の連携・施設の果たす役割を理解する。 2、介護実習の意義を理解し、実習に主体的な取り組みができるような態勢をつくる。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術 人間と社会の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション	介護実習と総合演習の関係性を知る シラバスについて理解する				
2	介護実習の意義について	介護実習時の心構えを知る。実習の目的・ねらいを知る 実習時の心構えを理解し、実習要項により実習の目的・ねらいがわかる				
3	実習 I-1について	介護実習時の心構えを知る。実習の目的・ねらいがわかる 実習要項により実習の目的・ねらいがわかる				
4	介護実習の施設について	介護実習における施設について学ぶ 施設介護実習の必要性を理解し、実習の意味と重要性を理解する				
5	介護実習の施設について	介護実習における施設について学ぶ 施設介護実習における施設の種類とサービス内容を理解できる				
6	報告・連絡・相談・確認	報告・連絡・相談・確認の重要性について学ぶ				
7	実習の目標設定と実習に必要な書類について	実習の目標の立て方、実習に必要な書類を知り、準備を行う 実習の目標設定の方法、実習に必要な事前書類を理解でき、準備を行う。(事前書類課題)				
8	実習記録について	実習記録の意義・重要性を知るとともに、記入方法とその留意点を学ぶ 実習ノートの使い方、書き込み手順を事例をもとに記入できる				
9	コミュニケーション	実習時におけるかかわりについて振り返る 対象理解のための信頼関係の気づき方について学ぶ				
10	プロセスレコード	実習計画・指導計画に基づいた学習をする プロセスレコードについてスーパービジョンを受ける				
11	プロセスレコード	実習計画・指導計画に基づいた学習をする プロセスレコードについてスーパービジョンを受ける				
12	介護福祉士の役割について	介護福祉士の役割を知る 社会福祉の分野で働く専門職員の役割について学ぶ				
13	実習反省会・自己評価	実習自己評価、振り返りの実施を行う。礼状の記入方法について学ぶ 礼状の記入方法を学び、礼状を書くことができる				
14	実習反省会・自己評価	実習自己評価、振り返りの実施を行う 自己評価、実習の振り返り(レポート)を行うことで自己課題を見つけることができる				
15	まとめ	実習自己評価、振り返りの実施を行う プロセスレコードの振り返りを行い、自己課題と観察記録の記入方法が理解できる				
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座9 介護過程、10 介護総合演習 介護実習						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】実習に臨む準備をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 総合演習Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
窪木 守	特別養護老人ホーム 14年勤務	窪木	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 1	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 実習Ⅰ-1を振り返り、学校生活で学んだ知識・技術・態度・倫理を介護実習施設で体験する。介護必要とされる方のかかわりをおして生活の場と個性を理解する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 1、利用者の生活・介護職員の役割・職員間の連携・施設の果たす役割を理解する。 2、介護実習の意義を理解し、実習に主体的な取り組みができるような態勢をつくる。 3、実習の事前・実習中・事後において教員や施設職員からスーパービジョン(指導・助言)をうける重要性を認識する。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術 人間と社会の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	介護実習の意義と目的について	介護実習の意義と目的。介護実習計画を知る 介護実習の意義と目的を知り、実習要項により実習計画を理解できる				
2	実習Ⅰ-2の実習について	介護実習時の心構えを知る。実習の目的・ねらいを知る 実習時の心構えを理解し、実習要項により実習の目的・ねらいがわかる				
3	介護実習の施設について	介護実習における施設について学ぶ 施設介護実習における施設の種類とサービス内容を理解できる				
4	介護福祉士と介護の理解	高齢者福祉 高齢者への福祉サービスの体系と内容について理解できる				
5	実習Ⅰ-2の目的と課題	対象者の生活の全体像を把握し、説明できる。 アセスメントを体験することで介護福祉士の専門性を深めることができる				
6	実習事前準備	実習事前準備 実習内容の確認と準備物・課題・記録等の最終確認ができる				
7	介護過程について	介護過程の展開が理解できる。				
8	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる 情報収集・分析・統合の過程を理解する				
9	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる 情報収集・分析・統合の過程を理解する				
10	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる まとめた情報から課題の明確化を図る				
11	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる まとめた情報から課題の明確化を図る				
12	実習振り返り・自己評価	アセスメント分析と評価				
13	実習振り返り・自己評価	アセスメントのまとめ				
14	実習反省会・自己評価	アセスメントの発表と自己課題の明確化				
15	まとめ	実習自己評価、振り返りの実施を行う				
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座9 介護過程、10 介護総合演習。介護実習						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】実習に臨む準備をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 実習 I - 1

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
		窪木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	40時間
			【曜日・コマ】		【授業形態・単位】	実習 1
【授業の概要】 実習 I - 1では介護を必要とされる方、一人ひとりを理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、介護を必要とされる方とのコミュニケーションの実践から介護福祉士の役割について理解する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 様々な生活の場で、多くの介護を必要とする方と接し、介護を必要とする方を知る。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	学習の主題	見学実習(5日間)				
2	・様々な生活の場を知り、介護を必要とする方と接し、生活の様子を学ぶ。 学習課題					
3	①施設・事業の見学行う。					
4	②オリエンテーションを受け、施設・事業等の説明を受ける。 ③多くの介護を必要とされる方々とかかわり、コミュニケーションを図る。 ④実習指導者や職員の指導のもと、日常生活支援を見学、一部を体験する。					
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	評価方法	課題の達成度	40%			
		実習評価	60%			
【教科書】最新 介護福祉士養成講座9 介護過程、10 介護総合演習. 介護実習						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】担当教員より指示があります						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名： 実習 I - 2

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
		窪木	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	160時間
			【曜日・コマ】		【授業形態・単位】	実習 4
【授業の概要】 実習 I - 2では介護を必要とする方、個々を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、介護を必要とする方、そのコミュニケーションの実践、介護技術の確認し、介護福祉士の役割について理解する実習とする。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①地域における高齢者や障害者の生活を知り、様々な介護を必要とする方の実際を理解する。 ②介護を必要とする方、一人ひとりの生活リズムや個性を理解しどのような生活をする上でのニーズがあるのか全体像を知る。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1		施設介護(20日間) 学習の主題				
2		・介護を必要とする方が生活をする場について学ぶ。				
3		・様々な場所で生活している介護を必要とする方の生活を学ぶ。				
4		・介護を必要とする方とのかかわりをおして個性を知る。				
5		・介護を必要とする方が生活している場所での介護職の役割を学ぶ。				
6		・実習指導者とともに基本的な介護技術を体験する。				
7		・実習中、一人の対象者を決定し、対話や日常生活支援等のかかわりを通して得た情報を整理することで、その方の全体像を把握できる。				
8		学習課題				
9		①介護を必要とする方の住まいや様々な暮らし方を学ぶ。				
10		②実習施設の概要、地域の特色や実習施設が果たしている役割を知る。				
11		③介護を必要とする方が生活している場所での介護職の役割を学ぶ。				
12		④実習施設の年間プログラムをおして、日常生活支援について考える。				
13		⑤実習指導者とともに、基本的な介護技術を見学、実践し学ぶ。				
14		⑥介護を必要とする方とのかかわり、一人ひとりの生活の様子や個性を学ぶ。				
15		⑦介護を必要とする方とのかかわりの場面を、自分自身のかかわりを客観的に振り返り考察する。				
期末試験		評価方法	課題の達成度	20%		
			実習評価	80%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座9 介護過程、10 介護総合演習 介護実習						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】担当教員より指示があります						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名： 老年学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
遠藤 敏裕	病院 26年勤務	佐藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 超高齢社会を迎え、高齢者の疾病構造は複雑化している。理学療法の視点から高齢者の疾病構造を理解し、適切な介助を行う上での基礎知識とすることと高齢者の健康科学について理解する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 1. 高齢者の疾病・心理の特徴を説明できる 2. 老化現象および高齢者の体力に関する変化を説明できる 3. 高齢者に対する医療・福祉制度を説明できる					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	老年学概論	老年学を学ぶ意義について理解できる 高齢化社会について理解できる				
2	加齢と老化	加齢と老化について理解できる 加齢に伴う運動機能や体力の変化について理解できる				
3	認知症	知能と記憶の生理的老化と病的老化の違いが理解できる 認知症の病因、特徴的な症状の説明及び萎縮脳の判別ができる				
4	脳血管障害①	脳血管障害を病型別に分類し、その違いがわかる 動脈硬化について理解できる、脳血管症と塞栓症の違いがわかる				
5	脳血管障害②	脳血管障害を病型別に分類し、その違いがわかる 脳出血・クモ膜下出血・硬膜下血腫等の違いについて説明できる				
6	パーキンソン病	パーキンソン病・パーキンソン症候群の機序と違いがわかる パーキンソン病・パーキンソン症候群の臨床症状の特徴を説明できる				
7	呼吸・循環器	高齢者の呼吸・循環機能の加齢変化についてわかる 高齢者に多い呼吸器・循環器疾患についてわかる				
8	消化器	高齢者の消化機能の加齢性変化を理解できる 高齢者に多い消化器疾患についてわかる				
9	泌尿器	高齢者の泌尿器の加齢性変化について理解できる 高齢者に多い泌尿器疾患についてわかる				
10	血液・内分泌・代謝	高齢者の血液・内分泌・代謝系の加齢性変化について理解できる 高齢者に多い鉄欠乏性貧血、糖尿病の合併症について説明できる				
11	運動器	高齢者の運動機能の加齢性変化について理解できる 骨粗鬆症、4大骨折、変形性関節症についてわかる				
12	皮膚	高齢者の皮膚の特徴について理解できる 高齢者に多い皮膚疾患(特に褥瘡)について理解できる				
13	感覚器	高齢者の感覚器の加齢性変化について理解できる 特に高齢者の視覚・聴覚の特徴的変化について理解できる				
14	廃用性症候群	廃用性症候群について理解できる 廃用性症候群の予防の重要性を理解できる				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 最新 介護福祉士養成講座12発達と老化の理解						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 高齢者の介護

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
知野 吉和	特別養護老人ホーム 8年勤務	知野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 3	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 高齢者における身体的特徴としての加齢の変化、精神的変化としての社会的・家族的役割を理解するとともに、高齢者の日常生活について展開方法を学ぶ。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 心身機能と構造の理解	
【学習目標(到達目標)】 高齢者のこころとからだの特性を理解し、介護の知識・援助技法を習得するとともに、行動様式に対応する介護のあり方を理解する。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	高齢者の介護について	高齢者の基本的理解 高齢者とは、加齢による変化についての定義を理解する。				
2	高齢者の介護について(演習)	高齢者の基本的理解 高齢者疑似体験: 体験をとおして高齢者の身体の特徴を理解する				
3	高齢者の介護について	高齢者の基本的理解 加齢による身体的変化と対処法				
4	高齢者の介護について	情緒的反応から生ずる介護上の諸問題 情緒的反応の理解をすると共に対応法を理解する。				
5	高齢者の介護について	高齢者への対応 情緒的反応から生ずる介護上の諸問題 脱水と随伴する疾患についてと情緒的反応の理解をすると共に対応法を理解する。				
6	高齢者の介護について	高齢者・障害者等の家族の理解 家族形態別にみた生活障害と介護				
7	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護が必要となる高齢者の要因 介護が必要となる高齢者の要因を理解する。				
8	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護が必要となる高齢者の要因 廃用症候群、障害老人の日常生活自立度について理解する。				
9	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護が必要とされる方が起こしやすい合併症 介護を必要とされる方の全身の身体への影響を理解する。				
10	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護を必要とされる方が起こしやすい合併症 介護を必要とされる方の、精神的影響を理解する。				
11	介護を必要とする方の高齢者の理解	嚥下障害による食事介助・口腔ケアの方法を理解する 嚥下のメカニズムの理解と口腔衛生の必要性について理解する。				
12	介護を必要とする方の高齢者の理解	嚥下障害による食事介助・口腔ケアの方法を理解する。 事例演習: 嚥下しやすい食品と嚥下しにくい食品の食事介助の方法を理解する。				
13	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護を必要とされる方の移動 介護を必要とされる方の移動の方法を福祉用具を活用して学ぶ				
14	介護を必要とする方の高齢者の理解	介護を必要とされる方の移動 介護を必要とされる方の移動の方法を福祉用具を活用して学ぶ				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】担当教員が指示します						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 認知症の理解

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
窪木 守	特別養護老人ホーム 14年勤務	窪木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 4	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
認知症高齢者と高齢者施設で介護を提供してきました。認知症高齢者の医療的背景及び行動を理解できる基礎知識が必須です。実務経験で得た具体的な事例を取り入れながら学んでいきます。					生活支援技術 コミュニケーションスキル 論理的思考力 知識・理解 コミュニケーションスキル	
【学習目標(到達目標)】						
①中核症状・周辺症状(BPSD)について基礎知識を習得する。						
②大脳の医学的知識から心身に及ぼす影響を理解する。						
③基礎知識を具体的な事例を通して活用する。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	オリエンテーション		認知症の定義、基礎知識について理解する 認知症介護の意義及び目的について学ぶ			
2	認知症のケアと理念		認知症ケアの歴史・理念を理解する 認知症の現状と今後、新オレンジプラン、虐待防止法について学ぶ			
3	認知症の医学・心理学的背景		大脳のしくみについて理解する 記憶とコミュニケーションについて学ぶ			
4	認知症の医学・心理学的背景		認知症の中核症状について理解する			
5	認知症の医学・心理学的背景		認知症の周辺症状、BPSDの行動・心理症状について理解する 認知症の評価尺度(観察法と検査法)について学ぶ			
6	認知症の医学・心理学的背景		老化のしくみと脳の変化について理解する 認知症と類似したせん妄、うつ症状について学ぶ			
7	認知症の医学・心理学的背景		認知症の原因疾患について理解する 認知症の原因疾患へのかかわりについて学ぶ			
8	認知症の医学・心理学的背景		認知症の治療・治療薬について理解する 認知症の予防、対策について学ぶ			
9	認知症の人の心理的理解		認知症の人の心理を考える 認知症の人の心理的理解(相手の気持ちを体験-ロールプレイング)			
10	認知症の人の体験の理解		認知症の人の体験について知る どのような介護を必要としているのかについて学ぶ			
11	認知症の人の体験の理解		認知症の人の疑似体験 言語だけでなく、非言語で表される表現理解について学ぶ			
12	認知症の人の生活理解		認知機能の変化が生活に影響を及ぼす影響について理解する 環境を整えることについて学ぶ			
13	認知症の人の生活理解		認知症の症状と環境との関係について理解する 物理的・社会的環境の効果について学ぶ			
14	認知症の人の生活理解		生活を構成する要素について理解する 生活課題について学ぶ			
15	まとめ		認知症の理解のまとめ			
期末試験			評価方法	筆記試験	60%	
				受講態度	40%	
【教科書】新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 認知症の介護

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
窪木 守	特別養護老人ホーム 14年勤務	窪木	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 1	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 認知症の方が住み慣れた地域で暮らし続けることができる介護を考えてみましょう。なじみの環境や生活と時代背景を理解し、介護関係を築けるかかわりについて					【受講して得られる力】 生活支援技術 コミュニケーションスキル 論理的思考力 知識・理解 コミュニケーションスキル	
【学習目標(到達目標)】 ①認知症高齢者の介護の原則を説明できる。 ②認知症高齢者の生活環境調整の基本を理解する。 ③住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域の資源と活用方法を学ぶ。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	オリエンテーション		認知症介護を学ぶ意義について理解する かかわりの基本、自己覚知の必要性について学ぶ			
2	認知症の人に対する介護		認知症高齢者の人とのコミュニケーション 日常生活活動の観察と感情機能の観察について学ぶ			
3	認知症の人に対する介護		認知症の人へのかかわり方、情報収集について理解する 認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式を活用し学ぶ			
4	認知症の人に対する介護		コミュニケーションの方法と基本姿勢について理解する コミュニケーションスキル・ロールプレイによる疑似体験			
5	認知症の人の介護過程		パーソン・センタード・ケアについて 認知症の人の心理的ニーズについて学ぶ			
6	認知症高齢者と介護関係		ユマニチュードについて コミュニケーションの方法と基本姿勢について理解する			
7	認知症高齢者と介護関係		コミュニケーションとかかわりについて学ぶ			
8	認知症高齢者と介護関係		認知症ケアの実践について学ぶ			
9	認知症高齢者と介護関係		地域や家庭でどのようにすれば認知症の人の思いを汲み取れるのか学ぶ			
10	認知症の進行に応じた介護		認知症の進行に応じた身体・心理・行動の変化を理解する 身体・心理・行動の変化に対するかかわりについて学ぶ			
11	地域におけるサポート体制		地域のサポート体制について理解する 地域におけるサポート体制の実践を学ぶ			
12	家族の力を活かす		家族を含めた「地域との協働について」理解する 家族のレスパイトケアとエンパワメントについて学ぶ			
13	ケアの実際		「その人らしい生活」を実践するアセスメントの実践 事例で学ぶ訪問介護計画書のつくりかた			
14	ケアの実際		「その人らしい生活」を実践するアセスメントの実践 事例で学ぶ訪問介護計画書のつくりかた			
15	まとめ		認知症の介護のまとめ			
期末試験			評価方法	筆記試験	60%	
				授業への貢献	40%	
【教科書】新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名: からだの構造と機能 I

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
富田 きよ子	病院 43年勤務	富田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 看護の臨床経験を生かし介護実践の根拠となる人体の構造や機能を学び対象となる人の健康状態や障害の状況を理解して介護を行うための基礎知識を養う					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 1.人体の諸器官の構造と機能を理解しその主な役割を説明できる 2.こころとからだのしくみ, 循環, 呼吸, 移動, 身じたく, 栄養等の日常生活と関連させることが出来る					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	こころとからだのしくみ		こころのしくみを理解する, 人間の欲求, 自己実現について理解する			
2	"		からだのしくみを理解する, からだの部位の役割, 全身の骨格について学ぶ			
3	生命を維持するしくみ		心臓の構造, 血液の組成と役割について学ぶ			
4	"		肺の構造, 呼吸運動と換気, 酸素と二酸化炭素の運搬について学ぶ			
5	移動に関連するしくみ		骨, 関節, 筋肉の動き, 姿勢の種類について学ぶ			
6			移動の目的, 身体機能の維持について学ぶ			
7			心身の機能低下が移動に及ぼす影響, 変化の気づきと対応について学ぶ			
8	身じたくに関連するしくみ		眼, 爪, 毛髪, 口腔, 舌の構造と機能について学ぶ			
9			身じたくの効果, 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響について学ぶ			
10			変化の気づきと対応について学ぶ			
11	栄養に関連するしくみ		消化と吸収のしくみについて学ぶ			
12			心身の機能低下が食事に及ぼす影響について学ぶ			
13			変化の気づきと対応について学ぶ			
14	生きている徴候		バイタルサインの測定をする			
15	まとめ					
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%	
				筆記試験	40%	
【教科書】最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ、15 医療的ケア						
【参考書】夜と霧(みすず書房)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 経済学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
皆川 國生		一般	佐藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】 15(30)
				【曜日・コマ】	月 4	【授業形態・単位】 講義 1
【授業の概要】 さまざまな問題を抱える今日の経済社会において生活者として日常的な経済問題を認識しつつ経済活動を営むことを念頭に経済の基礎について学んでいきます					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 経済を基礎とする社会の成り立ちとそこで営まれている経済活動と自らの生活とのかかわりを具体的に把握し、自らの実践的経済活動へとつなげていくことのできる力を身につけてもらうことが目的となります					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 人間と社会の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	ガイダンス	なぜ経済学を学ぶのか 日常生活と経済活動とのかかわりをイメージする				
2	経済学という学問	経済学の守備範囲 高校までの経済の理解とそれから先の理解をイメージする				
3	お金とは	貨幣経済の基本 お金の正体を知る				
4	お金の循環	貨幣流通の基本的仕組み お金はどこからきてどこに行くのかを具体的にイメージする				
5	経済活動の舞台①	「市場」という競技場 経済活動における競争原理のしくみを理解する				
6	経済活動の舞台②	「市場」のマジック 需要と供給、「見えざる手」について理解する				
7	経済が動かしているもの①	経済活動の主役「株」という化け物 「株」と株式市場				
8	経済を動かしているもの②	経済活動の指針と評価 「景気」と「物価」について理解する				
9	経済を動かしているもの③	経済活動の媒体 「商品」、「サービス」について考える				
10	経済を動かしているもの④	「会社」と「仕事」 「利益」と「給料」のしくみを知る				
11	経済社会のコントロール	「経済政策」の実効性 政治と経済とのかかわりを理解する				
12	国家の経済的基盤	国家財政と国家作用 「税金」のしくみとその使い方についてイメージする				
13	社会保障と経済	「しあわせの実感」と「夢のある将来」は可能か？ 社会保障制度のしくみと「年金」について考える				
14	社会問題と経済	現代社会の諸問題 「食糧」、「環境」、「労働」について考える				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】担当教員が指示します						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 児童福祉論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
緑川 浩子		一般	佐藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】 15(30)
				【曜日・コマ】	水 4	【授業形態・単位】 講義 1
【授業の概要】 子どもの権利とは何か、さらに児童家庭福祉の現状と多様化するニーズとその対策について学習する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①「児童の最善の利益」とは何かを理解する。 ②未来を担う児童の育成の責任及びそれを推進するための具体的制度・施策を理解する。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 人間と社会の理解	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	児童家庭福祉とは	児童家庭福祉の基本理念 わが国の「児童福祉法」「児童憲章」から児童の福祉とは何かを考える。				
2	子どもの権利とは	子どもの権利と権利保障 さまざまな条約によって、子どもの権利が保障されていることを学習する。				
3	児童家庭福祉の発展過程	欧米の児童福祉の歴史 年表作成				
4	"	日本の児童福祉の歴史 年表作成				
5	児童家庭福祉の現状	児童を取り巻く現代社会の把握 家庭機能の変容と少子化等がもたらす問題を学習する。				
6	児童家庭福祉サービス	要保護児童のための福祉サービス 社会的養護とは何かを学習する。				
7	"	被虐待児のための福祉サービス 児童虐待の実態、「児童虐待防止法」について学習する。				
8	"	非行児童、障害児のための福祉サービス 非行少年に対する施策と障害児のための児童福祉施設について学習する。				
9	"	ひとり親家庭と母子保健サービス 子育て支援、母子のためのサービスと児童の健全育成について学習する。				
10	児童家庭福祉に関する法制度	児童福祉六法				
11	"	児童福祉六法				
12	児童家庭福祉の実施機関	児童家庭福祉の組織と役割 国・市町村・都道府県の役割と機関の実際を学習する。				
13	児童家庭福祉の援助の実際	児童相談所による支援 児童相談所の機能と具体的な支援内容を学習する。				
14	児童家庭福祉の専門職	どのような児童福祉従事者がいるのか 児童福祉従事者の配置場所、職務内容などを学習する。				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】社会福祉学双書5 児童家庭福祉論						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 法学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1	
渡辺 信英		一般	佐藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
				【曜日・コマ】	木 4	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 本講義では、国家の基本法である憲法を中心に、民法では、紛争解決のために必要となる法原理を、行政法では、人々の幸せづくりにとって行政に必要な法原理を学んでいきます。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 本講座においては、法体系全体を判例を踏まえて、事例を挙げて説明できることを目的とする。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 人間と社会の理解		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	ガイダンス		法の意義、法の形式、法の歴史、法の内容 法の意義、法の全体像について事例を挙げて説明できる。				
2	日本国憲法①		日本国憲法の法体系の特徴と機能 日本国憲法の「個人の尊重」について事例を挙げて説明できる。				
3	日本国憲法②		基本的人権の制度概要 基本的人権の制度概要について事例を挙げて説明できる。				
4	日本国憲法③		基本的人権に関する判例 基本的人権に関する判例を学ぶ。				
5	日本国憲法④		統治機構(国会・内閣・裁判所)のしくみ 統治機構(国会・内閣・裁判所)のしくみを説明できる。				
6	日本国憲法⑤		統治機構に関する判例 統治機構に関する判例を学ぶ。				
7	民法①		民法の全体像 民法の全体像を理解する。				
8	民法②		総則・物権・債権の制度概要 総則・物権・債権の制度概要について事例を挙げて説明できる。				
9	民法③		総則・物権・債権の制度上の問題点 総則・物権・債権の制度上の問題点について事例を挙げて説明できる。				
10	民法④		親族法・相続法の制度概要 親族法・相続法の制度概要について事例を挙げて説明できる。				
11	行政法①		行政法の全体像 行政法の全体像を理解する。				
12	行政法②		行政救済三法の制度概要 行政救済三法の制度概要について事例を挙げて説明できる。				
13	法システム		法の種類・手続き 法システムについて事例を挙げて説明できる。				
14	法学のまとめ①		法学の全体像 これまでの授業を振り返り、全体像を理解する。				
15	法学のまとめ②						
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%		
				筆記試験	40%		
【教科書】日本国憲法 人権と福祉							
【参考書】なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習・復習をしましょう							
【本講義に関する質問先】				担当教員	【質問方法】	教員室にて	